

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年7月26日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年7月26日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【所内共通非常用ディーゼル発電機(B)の速度計指示不良について】 当直員が、所内共通非常用ディーゼル発電機(B)の確認運転において、停止中にも関わらず本体機関に取り付けられている速度計の指示が出ていることを確認。 当該速度計は、非常用ディーゼル発電機本体機付回転計として、運転時の回転数(参考用)を確認する為の速度計であり、インターロック等の制御系とは連動していないため、当該速度計故障による非常用ディーゼル発電機機関への影響はなし。 また、非常用ディーゼル発電機の回転数は、現場制御盤でも確認可能。 今後、当該速度計を点検予定。</p>	GⅢ	7月16日
2	<p>【増設多核種除去設備(B)クロスフローフィルタ二次側流量調整弁のシート漏えいについて】 当直員が、増設多核種除去設備(B)において、クロスフローフィルタ二次側流量調整弁が全閉しているにも関わらず、流量が指示している箇所が3ヶ所あり、シート漏えいしていることを確認。 いずれも当該調整弁より下流側の弁を全閉し、シート漏えいが停止したことを確認。 当該弁は全閉以外で系統運転を実施するため、系統運転に支障なし。 今後、当該弁を点検・修理予定。</p>	GⅢ	7月16日
3	<p>【淡水化装置(RO3)の次亜塩素酸ナトリウム切替弁接続箇所からの漏えいについて】 協力企業作業員がパトロール時に、淡水化装置(RO3)の廃液受槽への次亜塩素酸注入ラインにおいて、次亜塩素酸ナトリウム切替弁の接続箇所より30秒に1滴の漏えいを確認。 当該切替弁より上流側にある次亜塩素酸ナトリウム注入ポンプを停止したことで、漏えいが停止したことを確認。 漏えい量は、床面に30cm×30cm×深さは1mm以下。 その後、漏えい箇所の養生、および、ふき取りを実施済み。 弁を交換し、漏えいがないことを確認済み。</p>	GⅢ	7月17日
4	<p>【工具センターのトルクレンチ定期校正における精度逸脱について】 協力企業作業員が、工具センター貸出工具のうちトルクレンチの定期校正を行った際、1台の測定値が基準範囲を外れていることを確認。 貸出実績が5件あったが、聞き取りにより、いずれも基準値逸脱による問題なしを確認。 今後、精度を逸脱したトルクレンチを精度内に調整し、再使用予定。</p>	GⅢ	7月19日
5	<p>【既設多核種除去設備サンプルタンク(C)の外側フランジボルト部のにじみについて】 当社社員が、既設多核種除去設備サンプルタンク(A)～(D)の外側点検を実施したところ、サンプルタンク(C)のボルト1箇所でのにじみを確認。 ボルト直下の鋼材部に滴下した痕があるが、堰内に滴下した形跡なし。 滴下痕の分析を行ったところ、塩分が検出されたことから、系統水であると判断。 今後、当該箇所を修理予定。</p>	GⅢ	7月16日
6	<p>【6号機チャンネル着脱機等の電源不良について】 当直員が、6号機チャンネル着脱機(※)等の絶縁抵抗測定後に電源を投入したが、原子炉建屋最上階の床にあるコンセント収納箱内のコンセントに電源がきていないことを確認。 調査したところ、コンセント収納箱の内部に水溜まりがあることを確認。 震災後、換気空調系を停止していることにより発生した結露水がコンセント収納箱内に溜まったものと推定。 コンセント収納箱の水抜きは時間を要することから実施せず。 今後、仮設電源にてチャンネル着脱機等を使用予定。</p> <p>※チャンネル着脱機: 燃料集合体に取り付ける四角い筒状の金属製のカバーを取り付け・取り外しする際に使用する装置。</p>	GⅢ	7月20日
7	<p>【協力企業棟屋外北側に残置されている融雪剤の仮置き表示の期限切れについて】 当社社員が、協力企業棟屋外北側に残置されている融雪剤の仮置き表示の期限が切れていること(2020年3月31日)、および、社内システムへの未登録を確認。 融雪剤は、降雪時における給食運搬車両の出入りのために配備していたもの。 仮置きされている融雪剤を撤去済み。 今後、再発防止対策を検討。</p>	GⅢ	7月21日